２．古墳を地域資源化する（５）
―湯舟坂２号墳プロジェクトの 2024 年―

京都府立大学文学部考古学研究室

１．はじめに

京都府立大学文学部歴史学科考古学研究室では 2020 年より京丹後市教育委員会・京丹後市久美浜町須田区などと共同で、湯舟坂２号墳およびその周辺に分布する古墳の学術的価値を明らかにするとともに、その成果を地域資源として活用するための様々な取り組みをおこなってきた（京都府立大学文学部考古学研究室 2024 ほか）。今年度も令和６年度京都府立大学 ACTR「文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究」（研究代表：諫早直人）の一環で、須田平野古墳の発掘調査を軸として様々な活動を進めている。本稿では、京丹後市教育委員会と共同で京丹後市立高龍小学校５年生を対象として３年連続で実施している連携授業を中心に、その一端を紹介する。（諫早直人）

２．連携授業開始の経緯と経過

まずは、これまで高龍小学校の５年生を対象に３年間にわたりおこなってきた、連携授業の経緯と経過を紹介する（京都府立大学文学部考古学研究室 2024）。そのきっかけは、京都府ミュージアムフォーラムが推進する、次世代である子どもたちがふるさとの宝物を再発見、発信することで地域文化と次世代を「つなぐ」ことを目指す「次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト」（通称：つなプロ）の 2022 年度の実施校に、湯舟坂２号墳を校区に含む京丹後市立高龍小学校の５年生が選ばれたことである。湯舟坂２号墳の再評価作業に始まり、須田平野古墳の測量調査に着手しようとしていた本研究室もこれに積極的に協力することとなり、測量調査期間中にまず大学生が小学校におもむいて、古墳の基礎知識や湯舟坂２号墳などについて事前授業をおこなった。その事前授業を踏まえて小学生を実際に古墳に案内し、湯舟坂２号墳・須田平野古墳をゲーム方式で回る「古墳ツアー」を実施した。須田平野古墳では墳丘・石室の測量調査を間近で見学するだけでなく、表採した遺物や測量機材に直接触れる機会を設けた。小学生たちは、これらの活動で学んだことを校内発表会や京丹後市役所久美浜庁舎で開催されたつなプロ発表会において発表した。つなプロでは、小学生自らが「RyuTuber」となり古墳や地域の魅力を発信する動画も作成、YouTube にアップされているほか、これら一連の活動をまとめた冊子『高龍小学校 A to Z』も刊行されている[(1)]。

つなプロ自体は単年度の事業であったが、2023 年度以降も規模を縮小させながら高龍小学校との連携授業を継続している。2023 年度も須田平野古墳の発掘調査期間中に事前授業と「古墳ツアー」を実施する中で、前者ではワークシートを新たに作成したり、学生が考案した

湯舟坂プロジェクトオリジナル野帳などを配布し、後者では発掘調査体験をしてもらうなど、小学生により興味をもってもらえるような改善をおこなった。事後授業では、須田平野古墳発掘調査の際に作成した現地説明会資料をもとに小学生にもわかるように新たに作成した解説シート「須田平野古墳の発掘調査でわかったこと」を配布し[(2)]、調査で出土した須恵器を小学生が直接観察する機会を設けた。（多田一郎）

３．今年度の連携授業

今年度の高龍小学校における連携授業では、事前に京丹後市文化財専門職員や高龍小学校教員とのオンライン会議をおこない、これまでの調査期間中を中心とする対面授業に、オンライン授業を加えることで、事前・事後授業の回数を増やすなど、プログラムの改善をおこなった。以下に、その概要を紹介する。

（１）事前授業

Zoom を用いたオンライン形式による事前授業を７月 10・17 日に実施した。１回目のオンライン授業は、京丹後市の文化財専門職員によるガイダンスや、大学生からの自己紹介、小学生から大学生へのインタビューをおこなった。小学生からのインタビューでは、「京丹後市についてどんな魅力を感じるか」や「京丹後市の特産品であるお米について知っているか」などの質問があがり、京丹後産のお米のことなど、大学生にとっても京丹後市の魅力を小学生から教えてもらう機会となった。２回目のオンライン授業ではクイズなどを交えつつ、考古学や古墳について PowerPoint で説明をおこなった。授業の最後には夏休みの宿題として、身近な文化遺産について調べるワークシートを配布した（図１）。ワークシートは久美浜町内の古墳や寺社などを載せた地図を載せつつも、自由に文化遺産を選んでもらい、その「場所」や「説明」だけでなく、親や祖父母から地域の文化遺産の「昔話」を聞き取りしてもらう内容とした。

（２）対面授業

須田平野古墳の発掘調査期間中の９月 18・24 日に、対面授業を２回実施した。まず１回目の対面授業では大学生が高龍小学校を訪問し、翌週の「古墳ツアー」の事前学習として、７月におこなったオンライン授業の復習や須田平野古墳、湯舟坂２号墳について PowerPoint を使いながら解説した。また、小学生が夏休みの宿題として調べてきた文化遺産についてグループ発表をする時間も設けた。小学生が調べてきた文化遺産は、家の近所にあるお地蔵さんから地元の有名な寺社、「久美浜湾カキの養殖景観」（京都府選定文化的景観）など多岐にわたり、大学生にとっても久美浜の文化遺産について学ぶよい機会となった。授業の最後には、班対抗の発掘調査に関するクイズ大会をおこない、次週に予定されている「古墳ツアー」への関心を高める工夫をした。

２回目の対面授業では、発掘調査中の須田平野古墳や湯舟坂２号墳をめぐる恒例の「古墳ツアー」を実施した。まず湯舟坂古代の丘公園でスケジュールなどを説明した後、小学生 30 名を２グループに分け、須田平野古墳での発掘調査体験と湯舟坂２号墳での古墳クイズを交互におこなった。発掘調査体験では、まず大学生がおこなっている横穴式石室内の発掘調査を見学してもらった後、比較的安全な墳丘トレンチで実際に手ガリを使って発掘してもらった（写真１）。短時間ではあったが、トレンチ内ですでに出土していた遺物を真近で見ながら意欲的

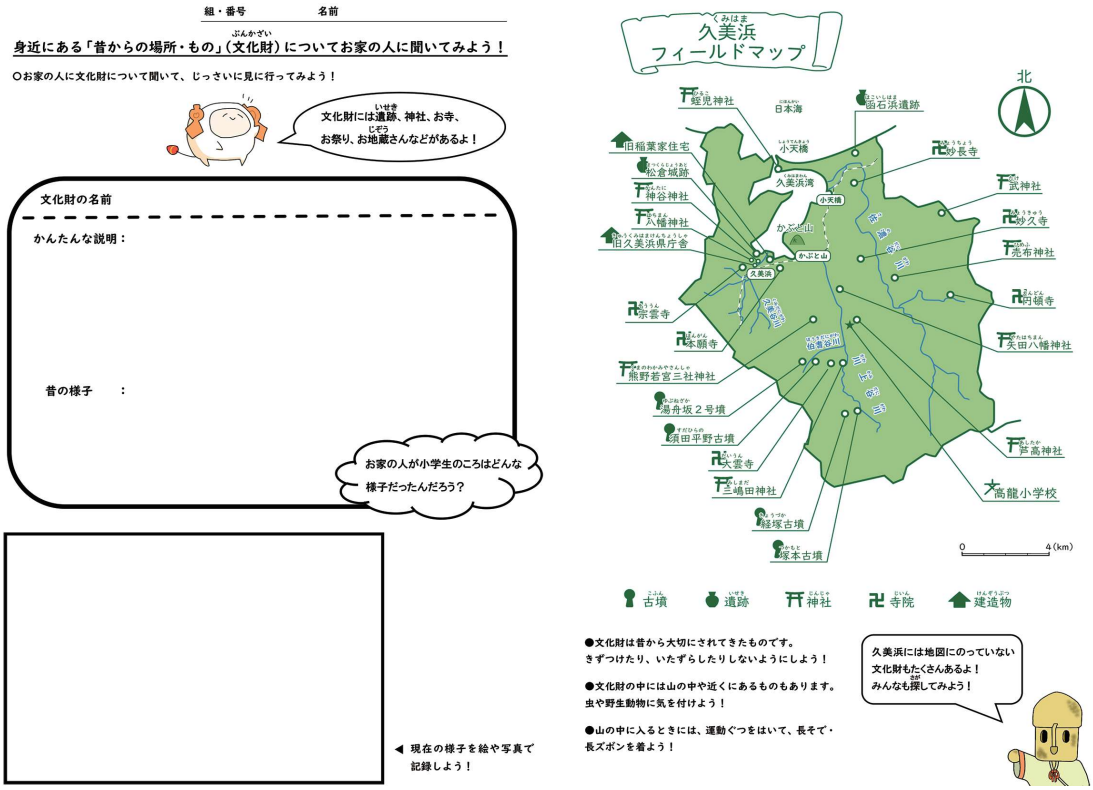

図１　夏休みの宿題として配布したワークシート

写真１　古墳ツアーの様子（１）（須田平野古墳）　写真２　古墳ツアーの様子（２）（湯舟坂２号墳）

に取り組んでいた。フルイ作業も石室内の発掘調査で出土した、調査期間中に実際に篩う予定であった埋土でおこなってもらうことで緊張感をもって取り組んでもらった。小学生たちが土の中から見つけたカケラを「これはお宝？」と何度も見せにきてくれたのが印象に残った。

（栗田晋吾）

湯舟坂２号墳でおこなった古墳クイズは、昨年のものを参考に自分の体を使って石室の広さを測らせる問題などを織り交ぜ、古墳の大きさを感じてもらったほか、選択した回答によって石室の中と外を行き来してもらうなど、小学生がクイズに対して興味をもてるよう工夫をした（写真２）。身長を超える石室に入った小学生は興味津々で、クイズにも鋭い質問を投げかけてくるなど、主体的に参加していた。クイズ終了後には、京丹後市が設置している湯舟坂２号墳の解説板を見学し、湯舟坂２号墳について解説をおこなった。

（3）事後授業

事後授業は 10 月 23 日に対面形式、31 日にオンライン形式でおこなった。まず対面授業では、大学生が高龍小学校を訪問し、これまでの授業で学んだ内容をもとに小学生がつくった劇を見て、セリフ（脚本）や動きに関するアドバイスをし、小道具づくりも手伝った。この劇は、11 月 2 日の校内学習発表会で披露するために準備されたもので、著名な世界遺産と同一線上で地元の文化遺産である古墳の魅力について発表する内容であった。観客が楽しめるようなセリフや振り付けを小学生自ら考えており、発表に向けて主体的に取り組んでいた。翌週に実施したオンライン授業では、劇の最終確認をおこなった。対面授業から 1 週間しか経っていなかったが、脚本や舞台上での動きが格段に良いものとなっていた。（多田）

（4）小結

今年度は、文化遺産の見学や発掘調査の体験を通じて小学生が住む地域の魅力を体感してもらう従来の内容に加えて、小学生自身が文化遺産について発信することもプロジェクトに加わった。小学生が学んだこと、体験したことを劇というかたちで、家族や地域住民の方に発表し、地域の魅力を自ら発信する力を身につけてくれたことは、半年間このプロジェクトに携わった大学生にとって、この上ない喜びであった。一方でオンライン授業の進め方などでは、課題も残った。今年度の反省を今後の活動へ活かしたい。（多田・栗田）

4．おわりに

本連携授業は、京都府の「つなプロ」事業がきっかけで始まったこともあり、初年度については大学院生を中心に取り組んでもらったが、２年目以降はあえて、考古学を専門的に学び始める３回生に考古学実習の一環として取り組んでもらっている。須田平野古墳の発掘調査と連動させながら学生が主体的におこなう本取り組みは、そう遠くない未来に文化財行政の最前線に立つかもしれない彼らにとって、格好のトレーニングの場ともなっている。小学生にどれほどのことを伝えられたかはさておき、小学生にもわかりやすいように考古学という学問の面白さや地元の古墳のもつ価値をアウトプットする試行錯誤の中で、彼ら自身が湯舟坂２号墳や須田平野古墳をはじめとする久美浜の文化遺産を、古墳という「点」ではなく久美浜という「面」でインプットしたことにこそ、大学教育における本連携授業の意義がある。最後に本連携授業の実施にご理解とご協力を惜しまれなかった、京丹後市立高龍小学校と京丹後市教育委員会の皆様に深く感謝したい。（諫早）

註

（1）京都府ミュージアムフォーラム「つなプロ　次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト」
http://museumforum.pref.kyoto.log.jp/tsunapro/1497/

（2）小学生版「須田平野古墳の発掘調査でわかったこと」
https://www.city.kyotango.lg.jp/material/files/group/43/syougakuseiban_sudahiranokohun.pdf

参考文献

京都府立大学文学部考古学研究室 2024「古墳を地域資源化する（4）―湯舟坂２号墳プロジェクトの 2023 年―」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第 10 号　京都府立大学文学部歴史学科

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。（い）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第11号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町1-5
発　行　日　2025年3月31日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒606-8540　京都市左京区下鴨高木町38-2